

奨励賞（神奈川県立青少年センター館長賞）

## 検索じゃ出てこない考え

横浜共立学園中学校 3年 <sup>さとう</sup>佐藤 <sup>りん</sup>凛

わからないことがあれば、すぐに調べる。私たちは、そういう時代に生きている。たとえば、数学の宿題で出てきた問題。社会のレポートに必要なデータ。気になっていた漫画の結末。どれも、スマートフォンがあれば一瞬で答えが見つかると思う。便利だし、効率も良いと思う。私も日常でよく使っているし、今のこの時代にはかかせないものだと思う。でも、最近ある出来事を通して、「検索じゃでてこない考え」の大切さに気づいたのだ。

それは、夏休みの宿題で将来の夢について考え、職業を調べるという課題が出たときのことだ。私は正直、まだあまりやってみたいことなど無く、調べる内容もなかなか決まらなかったのだ。何となく、「人の役に立つような仕事がしたい」とは思っていたけどそれがどんな職業か、どんな意味があるのかなどははっきりとはわからなかった。そこで、私はいつものようにスマホで「人の役に立つ仕事」「中学生に人気の職業」などと検索してみた。すると、医者、看護師、教師、消防士、カウンセラーなどの職業がたくさんでてきた。それぞれの仕事の内容ややりがい、必要な資格などもくわしく説明されていた。よむだけで、なんだか知った気になっていた。でも、そこから先が進まなかった。どれも立派な仕事だし、すてきだと思う。けれど、「これだ!」と思えるものはなかった。どれもどこか人の考えで、「私の考え」ではないように思えたのだ。その時、私はスマホをとじて少し考えてみた。私はどんな時に役に立てたと思うのか、私は何に対して心が動くのか。自分の過去を思い返してみた。そこで思い出したのは、小学生のころ、転校してきた子にずっと話しかけて、はやくクラスに馴染めるように手伝いをしたこと。中1の時、駅で体調の悪そうな人に勇気をだして声をかけたこと。そういう、「相手のきもちに気づいて、そっとよりそのようなこと」が私はうれしかったし、得意だと感じていた。それは、検索しても出てこなかった私だけの答えだった。

その経験から私は、「検索では出てこない考え」の大切さを強く実感した。検索すればたくさんの情報が出てくる。それは他のだれかが書いた言葉であり、だれかが感じたこと、だれかが決めた正解である。でも、そのまま使ってしまうと自分の考えは消えてしまう。たとえ、

時間がかかったとしても、自分のきもちと向きあって、自分なりに考えて出した答えのほうはずっと価値があると思った。

そこから私は、何かをえらぶとき、すぐに検索することをやめてみた。「この問題の意図ってなんだろう。」「この意見、本当にそうかな。」そういうことは、検索では答えが出ないと思う。そこで検索せずに、自分の中で考えて、迷って、なやんで、それでやっと出てきた言葉、考えこそが、本当の自分の気もちだと思うから。

今は情報があふれている時代だ。便利な一方で、私たちはその中にうもれてしまい自分の考えをもつ前に「だれかの答え」を信じてしまうことがある。動画や記事をひらけば、「これが正しい」「こうすれば上手くいく」といった言葉がすぐにとびこんでくる。けれど、本当にそれが自分にとって正しいのかどうかは、だれにも決められない。最後に決めるのは、自分自身なはずだ。たとえば、私はよく友人や家族から相談をうける。こういうときに、「ネットにはこう書いてあったよ。」というのは簡単だ。しかし、それでは相手の気もちにはよりそえないと思う。大事なものは、その相手がどうしたいのかを一緒に考えること、つまり検索では見つからない「心の声」に向きあうことだと思う。

また、考えることをやめてしまうと、自分らしさもなくなってしまう気がする。みんなと同じ答えをコピーするだけなら、そこには「私」という存在はうつらない。たとえ少し遠まわりでも、自分で考えて選んだ答えの方がずっと自分らしくてほこれるものになる。まちがったとしても、その経験が次につながる。情報に流されるだけでなく、自分でたちどまって「本当にそうかな」と疑うこと。そこから生まれる考えは、きっと私の人生を支えてくれると思う。

検索では出てこない、自分だけの考え。私はそれを大切にして、これからも生きていきたいと思った。